



青木 和恵（あおき・かずえ）氏
 県立静岡がんセンター副院長
 都立新宿高等看護学院卒。国立がんセンター中央病院入職。1982年昭和女子大国文科卒。2002年、静岡がんセンター入職。03年金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻看護学領域修士課程修了。11年4月より現職。日本看護学会理事、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会理事。日本がん看護学会評議委員。専門はがん患者の創傷・オストミーケア。

がんが与える恩恵

一瞬にして命が奪われてしまう病気に比べると、がんは診断から治療や病気の進行に年単位の経過があります。また、手術、抗がん剤治療、放射線治療など治療法が複数あり、患者さんは病状に加え自身の生き方を考えながら治療法や対応法を選択することになります。

新しいがん医療システムの創造

求められる適応支援力
 静岡がんセンターが創立

きていくのかという自己の価値観を問いかける病気でもあるのです。日本人は「ピンピンコロリ（死の直前まで元気で、長く病まずに亡くなること）」を理想とする傾向も少なくありませんが、私はがんが与える「自己を見つめる時間」をこの病気がもたらす恩恵と捉えています。

はインフォームド Consent、多職種チーム医療体制、冊子配布などによる情報提供、面談、電話による相談窓口の開設などを行って「適応支援」に努力してきましたが、課題も顕在化しています。その一つは充分な支援やケアを受けられない患者さんと、そうでない患者さんが出てしまうことです。各医療者は全力で医療サービスを提供しているにも関わらず、ケアの偏りが生じています。

県立静岡がんセンター副院長 青木和恵氏

10年目を迎えるに当たり、がん医療の中でも特に看護のあるべき姿について調査したところ、がん関連の病院には従来の診療能力向上に加え、がん患者さんが個々の状態を理解・納得し、前向きにがん付き合うための支援やケア、すなわち「適応支援」が求められていたことが浮き彫りになりました。

二つ目は、多職種チーム医療体制のなかで、どの職種も未着手の分野があったことです。何よりも大きな課題は部署、職種同士の連携不足です。それぞれの職種は個々には十分な働きをしていながら、それらをつなぐ機能が不足していました。患者さんとご家族を中心に、多職種のスタッフがそれを取り巻くように治療に携わっているにも関わら

外来構想」は患者さんのがんの過程において、外来を中心とする医療体制が「病棟」「外来」「在宅」の隔たりにく、中断なく、つながって支援を行い、患者さんの状態に最適な医療を提供するのが目的です。

がんの過程は予防や早期発見・治療に力を入れる「攻略期」、完治は見込めないが、抗がん剤治療などでがんの増殖を抑えながら生活しよう。

に、治療の悩みや問題を解決していく試みです。がん医療に専門性の高い知識と経験を持つ「がん専門看護師」と「認定看護師」をこの制度で十分活用していきたいと考えています。

これだけは知っておきたい
 がん医療の新潮流

静岡県立静岡がんセンター公開講座第8弾「これだけは知っておきたいがん医療の新潮流」（静岡新聞社・静岡放送、三島市民文化会館主催、県立がんセンター共催、スルガ銀行特別協賛、三島市、同市教育委員会後援）の最終回が3月25日、三島市民文化会館で開かれ、山口 建総長と青木和恵副院長が「病気と向き合う心構え 八カ条」「新しいがん医療システムの創造」をテーマに講演しました。その概要をお伝えします。

患者さんを苦しめます。病気が原因の痛みやその他の症状に加え、治療の副作用や後遺症などに悩まされることも少なくありません。日々の暮らしにもさまざまな影響が及びます。医療費の負担や仕事を続けられないこと、さらには、家族をはじめ対人関係での変化も悩みの原因になります。

抱えている難局を理解することによって、苦難を乗り越えることができます。そのため心構えを八カ条に

抱えている難局を理解することによって、苦難を乗り越えることができます。そのため心構えを八カ条に

抱えている難局を理解することによって、苦難を乗り越えることができます。そのため心構えを八カ条に

抱えている難局を理解することによって、苦難を乗り越えることができます。そのため心構えを八カ条に

多岐にわたる
 病気の悩み

重い病気に罹ると、患者さんやご家族はさまざまな悩みに襲われます。県立静岡がんセンターではがん患者さんがどのような悩みを抱えているかについて調査しました。2万数千件の事例を分析すると、悩みは大きく4つに分かれました。一つ目は診療の進め方に

関するもので、病院の選択や医師からの治療についての説明が分からないなどの悩みです。病気や治療につ

安、死など特定の対象の場合には恐怖として捉えられます。また人生の意味に疑問を抱いたり、生きがいをなくしたときに辛さが身にしみます。

抱えている難局を理解することによって、苦難を乗り越えることができます。そのため心構えを八カ条に

抱えている難局を理解することによって、苦難を乗り越えることができます。そのため心構えを八カ条に

抱えている難局を理解することによって、苦難を乗り越えることができます。そのため心構えを八カ条に

抱えている難局を理解することによって、苦難を乗り越えることができます。そのため心構えを八カ条に

病気と向き合う心構え 八カ条

県立静岡がんセンター総長 山口 建氏



山口 建（やまぐち・けん）氏
 県立静岡がんセンター総長
 1974年、慶應義塾大医学部卒。99年、国立がんセンター研究所副所長。同年宮内庁御用掛就任（併任）。2000年、高松宮妃療養基金学術賞受賞。02年より現職。厚生労働省「地域がん診療拠点病院の在り方に関する検討会」委員、創日本対がん協会評議員などを務める。研究領域は乳がん治療、腫瘍マーカー、がんの社会学。

安、死など特定の対象の場合には恐怖として捉えられます。また人生の意味に疑問を抱いたり、生きがいをなくしたときに辛さが身にしみます。

抱えている難局を理解することによって、苦難を乗り越えることができます。そのため心構えを八カ条に

抱えている難局を理解することによって、苦難を乗り越えることができます。そのため心構えを八カ条に

抱えている難局を理解することによって、苦難を乗り越えることができます。そのため心構えを八カ条に

抱えている難局を理解することによって、苦難を乗り越えることができます。そのため心構えを八カ条に

◆質疑応答◆

今を大切に

ここで述べた心構えは、健康な日々を過ごしている人びとにもあてはまりません。小学校で「命の学習」という講義をした際、ある児童から「命とは今を大切にすることだと思いました」という感想文をもらいました。与えられた人生を悔いなく生きるために、「今、自分にとって大切なことを知り、一日一日を大切に、自分らしく、自分のために生きること」を目指してほしいと思います。